

平成 28 年度事業報告書

会務 H28 年度事業報告

1) 会員管理

会員数(平成 29 年 3 月 31 日現在)

* 退会者数は退会届受理分

会員種別	27 年度末会員数 (H28/6/27)	28 年度入会者数	28 年度退会者数	28 年度末会員数
個人会員	579	39	31	587
学生会員	167	99	51	193
海外会員	4	0	0	4
*OECD	3	0	0	3
*OECD 以外	1	0	0	1
法人会員	7	0	1	6
名誉会員	15			14
計	772	138	83	804

* 上記集計はメール・郵便物不達者を除いた数。学生会員で 22 名

* 平成 27 年度末の名誉会員数に個人会員 1 名を加算してしまった為 15 名→14 名に改める。

* 平成 29 年度の会費請求並びに会員証は 3 月中に送付済。

* 学生会員 1 名が平成 29, 30 年度休会。

* 学生会員の継続確認の結果は、継続希望 28 名、継続希望しない 30 名となった。

* 学生会員 193 名には、継続確認に未回答の 53 名を含む。

2) 総会・理事会

1. 定時総会

2016 年 6 月 27 日(月) 16:00-17:00 於 横浜情報文化センター 7F 小会議室

2. 理事会

2016 年 6 月 27 日(月) 15:00-16:00 於 横浜情報文化センター 7F 小会議室

3. 理事会

2017 年 3 月 13 日(月) 14:00~16:00 於 万国橋会議センター4F 403 号室

3) 第 26 回日本 MRS 年次大会報告

日本 MRS 主催の標記年次大会が 2016 年 12 月 19 日～22 日の期間、横浜市開港記念会館、横浜情報文化センター、波止場会館、万国橋会議センター、神奈川県民センター、横浜産貿ビル、マツ・ムラホールの 7 会場で横浜市後援の下に開催された。

この大会では、「先進材料が技術革新を先導する」を総合テーマとし産業の活性化と材料科学の発展を両立させるための革新的な技術を創出するため、新規機能の探索、新規材料の創製、新規プロセスの開発に関する分野横断的なテーマについて討論した。21 シンポジウム(内、国際シンポジウム: 4)が開催され、研究発表は 834 件、参加者は約 967 名(内、海外から 14 名)であった。

4) 第 5 回日本 MRS 講演会

「計算科学の材料研究への応用～基礎と応用～」のテーマで、2016 年 12 月 22 日(木)13:00~16:40、横浜情報文化センター7階の大会議室で開催された。講師は 5 名で、参加者は約 14 名であった。

5) 横浜市次世代育成事業「日本 MRS 大実験室」の開催

2017年1月22日(日)に第26回日本MRS年次大会関連事業として日本MRS主催、横浜市共催で小中学生を対象とした講演会・体験学習会を開催した。参加者は生徒37名、特定NPO法人の見学者1名の計38名であった。今回は横浜市からの要望で小学生まで幅を広げての開催となった。当事業は今年で3回目となるが例年と同様盛況に終わった。

6) 国立高等専門学校機構—日本 MRS 連携促進会議を実施

会議開催日時：2016年10月28日(金) 15時30分から17時

会議開催場所：国立高等専門学校機構会議室(学術総合センター10階)

出席者：

国立高等専門学校機構：谷口 功理事長、紀 聖治理事、田村 隆弘室長、佐藤貴哉教授

日本MRS：伊熊泰郎会長(神奈川工科大教授)、東 雄一副会長(本田技術研究所上席研究員)、

森 利之副会長(NIMS上席研究員)

会議の概要は、以下のとおり。

国立高等専門学校機構 谷口理事長挨拶に続き、MRS-J 森副会長からのMRS-Jの概要説明が行われた。

MRS-J 伊熊会長からの日本MRS年次大会の運営方針説明、国立高等専門学校機構 紀 理事からの高専機構の現状の説明と将来展望の紹介(高専の先生がたの研究力を高めていきたいという展望を含む)がなされた。

加えて、国立高等専門学校機構佐藤先生から化学フェスティバルの概要説明と全国高専サミットに関する説明がなされた。(鶴岡高専の場合を中心に)。

化学フェスティバル(鶴岡高専開催の場合を中心に)：小学生の夏休みを利用して開催。

鶴岡高専では、通常は40ブースくらいが集まり、学生主体、先生がたが監修で実験を行い、1000人規模で開催。

全国高専サミット：第1回は鶴岡で開催済み。第2回目は沖縄高専を会場として開催する。

以上の双方の機関の活動現状の紹介をもとに、以下の取組を行うことが、双方で合意された。

1. 化学フェスティバル(鶴岡高専開催)に、日本MRSからブースを出すかたちで参加。
2. 全国高専サミット(沖縄高専開催、2017年11月予定)において計画されている優秀賞の選考審査に伊熊会長も審査員として参加し、優秀研究選考にあたる。優秀賞を受賞した生徒(学生)には、2017年日本MRS年次大会で開催予定の、高専主体のシンポジウムでの発表(お披露目発表)参加のための旅費・参加登録費の援助を日本MRSとして行う仕組みづくりを行う(2017年春の理事会・総会において審議・了承をとる)。

将来的には、IUMRSとの連携を考えることも大切であるとの共通の認識を確認し、会議は終了した。

日本 MRS ニュース編集委員会 H28 年度活動報告

日本 MRS ニュース編集委員会
委員長 岩田展幸

28-01号 目次

- やあ こんにちは
「材料による地域の産業振興への挑戦」
燃料電池ナノ材料研究センターセンター長
社会連携・研究支援機構水素・燃料電池技術支援室 室長 飯山 明裕
- 第 25 回日本 MRS 年次大会開催報告
・一技術革新を先導する先進材料研究一
日 時 2015 年 12 月 8 日(火)～10 日(木)
場 所 横浜情報文化センター、横浜市開港記念会館、万国橋会議センターほか
- ご案内
・日本 MRS 組織・役員等 (2015 年 6 月 26 日～2017 年定例総会終結時)
・第 26 回日本 MRS 年次大会
主催：日本 MRS
日時：2016 年 12 月 19 日 (月) ～22 日 (木)
場所：横浜情報文化センター他

28-02号 目次

- やあ こんにちは
「グローバル化と大学での研究」
東京工業大学物質理工学院材料系 教授 鶴見 敬章
- 研究所紹介
・東京理科大学研究推進機構総合研究院
・光触媒国際研究センター Photocatalysis International Research Center
・東京理科大学研究推進機構総合研究院
・光触媒国際研究センター・光触媒研究推進拠点 准教授 勝又 健一
- 研究トピックス
・低環境負荷・資源循環型社会構築および 国土強靱化のためのセメント系材料の研究・開発
・島根大学大学院総合理工学研究科物質化学領域 准教授 新 大軌
- ご案内
・第 26 回日本 MRS 年次大会(旧称：日本 MRS 学術シンポジウム)
日時：2016 年 12 月 19 日(月)～22 日(木)
場所：横浜情報文化センター、横浜市開港記念会館：予定、万国橋会議センター：予定、波止
会館：予定、産業貿易センタービル：予定、神奈川県民ホール：予定
総合受付：横浜情報文化センター6階ホワイトエ

28-03号 目次

- やあ こんにちは
「廃棄物の材料研究」の必要性について 原 一広
・九州大学 大学院 工学研究院エネルギー量子工学部門
・工学研究院附属 循環型社会システム工学研究センター
・九州大学シンクロトロン光利用研究センター
・同 バイオメカニクス研究センター
- 研究所紹介
・群馬県立産業技術センター 北島信義
- 研究トピックス
・MRS-J シンポジウム 2015 報告 スポーツにおける材料科学 村上秀之 下田一哉
- ご案内
・第 26 回日本 MRS 年次大会(旧称：日本 MRS 学術シンポジウム)
日時：2016 年 12 月 19 日(月)～22 日(木)

場所：横浜情報文化センター、横浜市開港記念会館：予定、万国橋会議センター：予定、波止
場会館：予定、産業貿易センタービル：予定、神奈川県民ホール：予定
総合受付：横浜情報文化センター6階ホワイエ

28-04号 目次

- やあ こんにちは
「材料科学・工学における学協会の役割と MRS-J への期待」
無機材料総合研究所代表・日本セラミックス協会フェロー・日本学術会議連携会員 陶山 容子
- 研究所紹介
・九州大学次世代燃料電池産学連携研究センター (NEXT-FC) 佐々木一成
- トピックス
・強磁場コロイドプロセスによる配向ヘマタイトの創製と異方特性評価 打越 哲郎
- ご案内 08 To the Overseas Members of MRS-J

編集委員会 H28 年度活動報告

編集委員会 委員長 有沢 俊一

平成 28 年度活動報告

- 2016 年 (Vol. 41) の論文掲載数 83 本 (レビュー4 本、一般 79 本)
- 各種の発行関連制度の見直し。主な目的は投稿からリリースまでの時間短縮およびコストダウン

投稿からアクセプトまでの時間短縮 (2016 年 7 月より)

- 査読者割り当て、査読などの期間の見直し
 - ・エディターが査読者を決める期間 10 日⇒7 日
 - ・査読 (候補) 者が、査読を引き受けるかどうか返事をするまでの期間 10 日⇒5 日
 - ・査読期間 30 日⇒21 日
 - ・改訂し、再投された稿論文の査読期間 30 日⇒21 日

2016 年 3 号 (9 月 1 日発行) より、

- 毎号の発行日の統一 (オンライン発行日を毎号の公式発行日に。発行月の 1 日)。発行日の明確化。
- 紙版は公式発行日から 2 週間程度のちに届く。
- 論文の末尾に、これまでの received, accepted に加え published online の日付を追加。

2016 年 10 月

- 年 6 号化、紙版の削減と CD の年 1 回化、理事アンケートの実施
- 会員へのメール、CD・冊子へのチラシ同梱などで周知。

2017 年 1 号 (2 月号) より

- 発行を年 6 回、偶数月の 1 日に。
- 図書室、法人会員等をのぞき、紙版を削減。

- 会員向け CD を 2017 年より、年 4 回を 1 回のボリュームアーカイブ版に変更。

CD 発行頻度の見直し

- 2017 年 1 号（2 月 1 日発行）より、オンライン年 6 号、CD は年 1 回体制に。

広報・情報委員会 H28 年度活動報告

広報・情報委員会
委員長 青木 学聡

平成 28 年度報告

1. マイページ機能の使用開始
会員向けマイページ機能の提供開始。年次大会への講演申し込み、参加登録情報の連携を実施。
2. ホームページの維持管理と充実。特に J-stage とのスムーズな連携
年次大会、IUMRS-ICAM2017 に関する情報の掲出、事務局からのお知らせ等の情報発信をこまめに行った。また、TMRSJ の J-Stage への掲載通知等を行った。
3. 協賛可否、告知依頼の掲載可否など。
外部団体から掲載依頼に応えた (HP への掲載 4 件、日本 MRS ニュースへの掲載 2 件)。詳細は別紙参照
4. 会員向け告知情報の充実。外部団体等から広く認知され、協賛依頼等が届くよう図る。
会員向けメーリングリストに対し 12 件の通知を行った。詳細は別紙参照のこと

H28 年度会員向け情報配信履歴

	配信日	件名	配信先
1	6 月 13 日	日本 MRS からの公募情報のお知らせ(6/13)	
2	9 月 1 日	日本 MRS 論文誌の新号をオンライン公開しました	
3	10 月 28 日	【ご案内】第 5 回日本 MRS 講演会開催のお知らせ	
4	12 月 12 日	再送【ご案内】第 5 回日本 MRS 講演会開催のお知らせ	
5	12 月 15 日	再再送【ご案内】第 5 回日本 MRS 講演会開催のお知らせ	
6	1 月 1 日	日本 MRS 会員の皆様へ新年のご挨拶	
7	1 月 16 日	【お知らせ】日本 MRS 法人会員の皆様へ	法人会員のみ
8	1 月 26 日	再送【お知らせ】日本 MRS 法人会員の皆様へ	法人会員のみ
9	1 月 23 日	【お知らせ】日本 MRS 会員のみなさまへ公開シンポジウムのご案内	
10	2 月 6 日	日本 MRS 論文誌の新号をオンライン公開しました	
11	2 月 10 日	【日本 MRS 会員】IUMRS-ICAM2017 発表登録のお願い	
12	2 月 28 日	【ご案内】日本 MRS 会員の皆様へ討論会開催のお知らせ	
13	3 月 15 日	【日本 MRS 会員の皆様へ】IUMRS-ICAM2017 発表申込みのお願い	

協賛依頼一覧(MRS-J_HP 掲載)

	掲載方法	会合名	主催団体	開催日	開催場所	備考
1	HP	平成 29 年度 日本学術会議公開シンポジウム	日本学術会議	H29 年 4 月 22 日	日本学術会議講堂	https://www1.mrs-j.org/event/doc/20170422doc.pdf
2	未	ナノ学会第 15 回大会	ナノ学会(第15回大会実行委員会)	H29 年 5 月 10 日～ H29 年 5 月 12 日	北海道立道民活動センター かでる 2・7	http://www.mtg-officepolaris.com/nano15/index.html
3	未	10th International Symposium on Transparent Oxide and Related Materials for Electronics and Optics (TOEO-10)	日本学術振興会 透明酸化物光・電子材料第 166 委員会	H29 年 7 月 3 日～ H29 年 7 月 5 日	International Conference Center, Waseda University	http://conf.msl.titech.ac.jp/TOEO10.html
4	HP	第 26 回無機リン化学討論会「千葉大会」	日本無機リン化学会	H29 年 8 月 24 日～ H29 年 8 月 25 日	千葉工業大学(津田沼キャンパス)	http://www.jaipc.jp/?p=720
5	HP	2017 電気化学セミナー2「初心者のための電気化学測定法—基礎編」(2017. 5.18)	電気化学会普及委員会	H29 年 5 月 18 日	東京理科大学(神楽坂キャンパス1号館 記念講堂)	http://www.electrochem.jp/promotion/index.html

(日本 MRS ニュース掲載)

5	Vol.28 No.4	Plasma Conference 2017 (PLASMA2017)	応用物理学会 他	H29 年 11 月 21 日～ H29 年 11 月 24 日	姫路商工会議所	http://www.jspf.or.jp/PLASMA2017/index2.html
6	Vol.28 No.4	2016 年電気化学会関東支部セミナー	電気化学会関東支部	H28 年 12 月 9 日	明電舎大崎会館	http://www.electrochem.jp/event/2016_1209.html

表彰委員会 H28 年度活動報告

表彰委員会 委員長 節原 裕一

第 26 回日本 MRS 年次大会奨励賞受賞者一覧

	sympo	presenter	affiliation	Papertitle
1	A-1	近藤 貴弘	山梨大学大学院	Flexible Sensor Based on Piezoionic Effect
2	A-2	高柳 真	東京理科大学理学部応用物理学科	Band Structure and Proton Conduction of YSZ Thin Film at Intermediate Temperature Region
3	A-2	朽名 和俊	東京大学大学院工学系研究科	Photovoltaic properties of BaTiO ₃ -based thin film capacitors with SrRuO ₃ electrodes
4	A-2	川村 欣也	東京理科大学大学院理学研究科応用物理学 専攻	Pulse-reacted Long-term and Short-term Memorization of Pt/TiO _{2-δ} /Pt Cross-point Structure with Electron-ion Mixed Conduction
5	A-3	松田 晃史	東京工業大学 物質理工学院・材料系	Buffer-induced room-temperature epitaxy of β-Ga ₂ O ₃ thin films by excimer laser annealing
6	A-3	河合 伸哉	金沢工業大学	Preparation of c-Axis and Non-c-Axis Oriented Thin Films of Bi-based Oxide Superconductor by MOCVD Targeting Power Electronics Application
7	A-3	牧 采佳	名古屋工業大学	Fabrication of Fe-S-O thin films by sulfur annealing of electrochemically deposited FeOOH films
8	A-4	原田 淳史	横浜国立大学大学院工学府	Development of micro-capsulated self-healing agent with oxide shell by 3-fluid nozzle spray drying technique
9	B-1	中野 恭兵	理研 CEMS	Charge and Exciton Cascade for Efficient Organic Solar Cells
10	B-2	森 龍也	筑波大学数理工系物質工学域	Terahertz Time-Domain Spectroscopy Investigation of Boson Peak in Glassy Glucose
11	B-3	田村 柚子	横浜国立大学 工学府	Oxygen reduction activity of Nb added TiO ₂ model electrodes as non-platinum cathodes for PEFC
12	B-3	五十嵐 光	横浜国立大学, グリーン水素研究センター	Synthesis of titanium conductive oxides support for PEFC cathodes by hydrogen reduction
13	B-3	藤田 礁	横浜国立大学	The effect on property of Li _x Ni _{2-x} O ₂ /Ni anode with modification method for alkaline water electrolysis
14	B-4	山田 翔太	名古屋大学未来材料・システム研究所	Preparation of Red Blood Cell-like Particles with Ability to Avoid Accumulation in the Lungs
15	B-4	牛木 龍二	群馬県立群馬産業技術センター	An attempt to treat waste water containing edible oil by using eggshell as adsorbent
16	B-4	茂野 交市	山口大学大学院理工学研究科/宇部工業高等専門学校	Low Temperature Sintering Behavior and Microwave Dielectric Properties of Alumina Ceramics Containing a Small Quantity of CuO-TiO ₂ -Nb ₂ O ₅ -Ag ₂ O Additive
17	C-1	石関 圭輔	東京理科大学大学院工学研究科	Million-Atom Simulation on Quantum Transport in Nanostructures: Application to the Crossover from Quantum to Classical Transport Characteristics of Carbon Nanotubes
18	C-2	野田玲央奈	名古屋大学大学院工学研究科	Formation of Hetero Smectic Lamella Structure of LC copolymer with Azobenzene and Oligo(ethylene oxide) Side Chains
19	C-2	久木 一朗	大阪大学大学院工学研究科	Layered Assemblies of Hydrogen-Bonded Porous 2D Frameworks Composed of pi-Conjugated Molecules: Structures and Properties
20	C-2	廣瀬 崇至	京都大学大学院工学研究科	Investigation on Highly Photoresponsive 2-D Molecular Assembly Composed of Photochromic Diarylethene at the Liquid/Solid Interface
21	C-2	福井 智也	物質・材料研究機構/筑波大学大学院数理工系物質科学研究科	Control over differentiation of a kinetically trapped supramolecular assembly in dimensions
22	C-2	中谷 隆一	東京工業大学物質理工学院材料系	Formation of Perpendicular Oriented Block Copolymer Domains via Underlayer-Free Process and its Size Miniaturization
23	C-2	竹下 樹里	静岡大学理学部	Dye Adsorption Behavior of Supramolecular Hydrogel Formed By Amphiphilic Tris-Urea

24	C-3	戸賀沢 稜	慶應義塾大学大学院理工学研究科	Fluorine-Free Slippery Surface with Hot Water Repellency and Durability against Boiling
25	C-3	川原 美菜	宇都宮大学大学院工学研究科	Interaction of Vitamin A and Lipids in Langmuir Monolayers
26	C-4	リ オイルン ヘレナ	芝浦工業大学 理工学研究科 機能制御シ テム専攻 / SIT 総合研究所	Towards Efficient Electrocatalysts for Oxygen Reduction by Enriched Graphitic-N Composition in N-doped Carbon via Liquid Plasma Process
27	C-4	李 超	東北大学大学院工学研究科	Structural-Controlled Synthesis of WS ₂ /S ₂ Array
28	C-4	宮原奈乃華	九州大学	Effects of Sputtering Gas Composition on Properties of ZnO Prepared by Nitrogen Mediated Crystallization Method
29	C-4	堤 隆嘉	名古屋大学	Advanced Plasma Etching Processing with Feedback Control of Wafer Temperature for Fabrication of Atomic-Scale Organic Devices
30	C-4	出口 祐世	北海道大学工学院	Measurement of density distribution of O atoms in spatial afterglow of dielectric barrier discharge by two-photon absorption laser induced fluorescence
31	D-1	太田 康博	名古屋工業大学大学院 工学研究科/河合石 灰工業株式会社	Fabrication of a Blue-colored Photoluminescent Nano Boehmite by Solvothermal Reaction of Aluminum Hydroxide Gel in Monoethanolamine
32	D-2	山内 俊	宇都宮大学工学研究科	Enhanced Effects of Cationic Released from Bacterial Cells on Formation of Biofouling Layer on Reverse Osmosis Membrane
33	D-2	柘植 洋祐	慶應義塾大学大学院 理工学研究科 総合テ ザイン工学専攻	Slippery liquid-immobilized film with high thermal and chemical stability
34	D-2	庄司 幸平	東海大学大学院理学研究科	Study of Molecular Dynamics and Aggregation Structuring with Water for Edible Oil by Dielectric Spectroscopy
35	D-3	垣谷 健太	東京大学大学院工学系研究科	The Interface between Pt Nanoparticles and the Ar ⁺ Irradiated Glassy Carbon Substrate
36	D-4	森 英喜	産業技術短期大学機械工学科	Analysis of dislocation core structure in Aluminum by neural network atomic potential
37	D-4	赤松 寛文	東京工業大学科学技術創成研究院	Exploration of 180° Ferroelectric Domain Wall Motion Pathways in PbTiO ₃ Based on Representation Theory and First-Principles Calculations
38	D-4	中尾 琢哉	東京工業大学フロンティア材料研究所	Theoretical and experimental study on the indicator for the control of Ru particle sizes on supports
39	D-4	吉田 大輔	横浜国立大学工学部	The mechanism of stabilization for covalent bonding in diatomic molecules
40	D-5	上村 真生	東京理科大学基礎工学部/東京理科大学総 合研究院イメージングフロンティアセンター	Over-1000 nm Near-Infrared Fluorescent Probes for Deep Tissue in vivo Imaging
41	D-5	増田 造	東京大学大学院 工学系研究科	Design of a gradient self-oscillating polymer brush exhibiting controlled unidirectional motion by sacrificial-anode atom transfer radical polymerization
42	D-5	山崎 成章	千葉大学	Colloidal Self-Assembly of Periodic Nanostructures Toward Photonic Devices
43	D-5	鈴木 星牙	東京工業大学物質理工学院	Affinity-based Thermoresponsive Functionalization using Polymer-binding Peptides
44	E-1	若山 彰太	東京理科大学大学院総合化学研究科	Effects of selenolate and telluroate ligands on electronic and geometrical structure of Au ₂₅ cluster
45	E-1	松本 憲志	京大大学院理学研究科化学専攻	High-performance DL/D1 ₀ -FePd/ α -Fe nanocomposite magnets with well-controlled nanostructures
46	E-1	田中 秀幸	東京工業大学大学院理学院化学系	Fabrication of Visible-Light Active Co(OH) ₂ /TiO ₂ Photoanode
47	E-2	帆保 拓登	熊本大学大学院 自然科学研究科	High-yield of quercetin and β -D-rutinoside from rutin using microwave with graphene oxide
48	E-4	洪 性賛	筑波大学体育系	Aerodynamic characteristics of new design soccer balls.

IUMRS 対応委員会 H28 年度活動報告

IUMRS 対応委員会

森 利之

1. IUMRS-ICAM 2016 (SUNTEC, Singapore, 4th July to 8th July, 2016) 参加 (伊熊会長、森他で総会にも出席)
2. IUMRS-ICA 2016 (Qingdao, 20th October to 24th October, 2016) 参加 (あわせて伊熊会長に Adhering body 会議出席を依頼)
3. IUMRS-ICYRAM 2016 (11th December to 15th December, 2016)
MRS-J 年次大会 (12 月 19 日から 22 日、横浜) と開催日が非常に近く、伊熊会長、森 (年次大会組織委員長) は参加不可能であったことから、IUMRS 対応委員会委員の松下先生を中心に参加メンバーを募っていただき参加。
4. 2016 年 8 月 27 日 IUMRS-ICAM 2017 (開催地: 京都) の現地打ち合わせ。京都大学会場の視察と現地における関係者との打ち合わせを実施した。
5. 2016 年 10 月 6 日 (木) 場所: 横浜開港記念会館において、IUMRS-ICAM 2017 第 1 回実行委員会開催 (横浜)。
6. 2016 年 6 月、日本 MRS (会長: 伊熊泰郎 神奈川工科大学教授) と Australian-MRS (会長: Jim Whiliams 教授 オーストラリア国立大学、オーストラリア) はジョイント・シンポジウム開催に関する覚書 (MoU) を締結。
IUMRS-ICAM2017 において第 1 回のジョイントシンポジウムを開催予定。
2015 年 12 月に、日本 MRS (会長: 伊熊泰郎 神奈川工科大学教授) と E-MRS (元会長: Thomas Lippert 教授 Paul Scherrer Institute、スイス) で交わされたジョイント・シンポジウム開催に関する覚書 (MoU) に次いで 2 件目となる。
日本 MRS と E-MRS のジョイントシンポジウムは、IUMRS-ICAM2017 で第 3 回目を開催予定。
7. **Somiya award 関連**
3 月末を締め切りに現在公募中。まだ、応募は 1 件なので、継続して候補者をつのることとする。